

第32回東海財界倶楽部開催

名古屋市会議長・丹羽ひろし氏を招いて講演

小社主催の異業種交流会「第32回東海財界倶楽部」が8月23日、「ホテルオークラレストラン」で開かれ、名古屋市会議長で、日本ウォータージェット学会技術部会委員でもある丹羽ひろし氏により、「市設建築物に対するアセットマネジメントの取り組み」と題した講演が行われた。

丹羽氏は名東区選出で、先頃の市議員選挙で4回目の当選を果たした。市民の集まりなどに毎日のように顔を出し、常に市民の声に耳を傾けている。くみ上げた声は、市議会での質問につながり、市役所にも積極的に働きかけるなど、アグレッシブに議員活動を行っている。

議員になる前は、会社員として、建築物や高速道路の維持管理の仕事に24年間携わり、「一級土木施工管理技士」の資格も持つ。長いキャリアに裏付けられた知識と経験は、議員の仕事にも活かされてきた。

講演では、公共施設の維持管理などに関する問題を中心に話した。名古屋市の築40年以上の公共施設の割合は、令和4年度末には全体の55%となると見込まれており、改修のための費用の増加は避けられない状況にある。「歳出予算に占める義務的経費の激増」という厳しい現状がある中で、公共施設の維持管理に関して、今後の名古屋市の対策や指針をまず解説した。一方で、丹羽氏は、「市のアセットマネジメントには経済効果という視点が入っていない」と考えている。

これまでも市議会でテーマとして取り上げてきたと述べ、名古屋市の保有する公共施設の延床面積の約半分を占める市営住宅を例に取り、解体して作り直す場合などにかかる想定費用と売却した場合に見込まれる固定資産税などを試



講演する丹羽ひろし氏



乾杯の発声を行うホクセイ・山下三男氏

算し、ダイナミックな計画も必要なのではと話した。このほか、道路の維持管理に関して、「便益」の観点を取り入れる必要性についても語った。

講演の後は立食形式のパーティとなった。丹羽氏の周囲には常に参加者の輪ができており、宴が終わるまで丹羽氏はほとんど食事をせず多くの人と話をしていた。

この日の主な参加者は、東邦ガス・紀村英俊 常務取締役、中日本興業・服部徹社長、ホクセイ・山下三男取締役会長、駐名古屋大韓民国総領事館・朴先哲総領事代行。